

再評価結果（平成20年度 継続箇所）

担当課：道路局地方道・環境課

担当課長名：徳山 日出男

事業名	地域高規格道路 東播磨南北道路 主要地方道加古川小野線		事業区分	地方道	事業主体	兵庫県
起終点	加古川市野口町坂元～八幡町上西条				延長	6.0km
事業概要	主要地方道加古川小野線は、加古川市の国道2号を起点として小野市の国道175号に至る東播磨地域の主要な南北幹線道路である。当地域の増加する南北交通への対応と臨海部・内陸部相互の連携強化、交流促進を図る4車線（暫定2車線整備）の道路である。					
H10年度事業化	H12年度都市計画決定 (H19年度変更)		H10年度用地着手		H17年度工事着手	
全体事業費	601億円		事業進捗率	53%	供用済延長	0.0km
計画交通量	33,100台/日(4/4) 12,900台/日(2/4)					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 236 / 615 億円 事業費：217/596億円 維持管理費：19/19億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 664 / 664 億円 走行時間短縮便益：612 / 612億円 走行費用減少便益：43 / 43億円 交通事故減少便益：9.4 / 9.4億円	基準年 平成19年		
事業の効果等	円滑なモビリティの確保（交通渋滞の緩和、交通事故の削減及び地域環境の改善が見込まれる） 国土・地域ネットワークの構築（地域の連携や人・モノの交流を拡大し日常生活における利便性の向上が見込まれる） 安全で安心できるくらしの確保（建設される（仮称）県立加古川病院（3次救急）へのアクセスの向上が見込まれる） 他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	加古川市をはじめとする関係市町や地元代表者による「東播磨南北道路建設促進期成同盟会」が組織されており、毎年要望があり、協力体制も整っている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	本路線に近接し、（仮称）県立加古川病院が平成21年に開院することとなった。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	新病院開院時にあわせて部分供用すべく事業を推進しており、平成18年度末現在の進捗率は、用地買収90%、本工事12%である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成19年度までに、全橋梁25橋のうち19橋に着手している。また、残る用地については、平成20年度中に取得する予定である。事業進捗上特に問題もなく、今後は早期供用に向けて事業促進を図る。					
施設の構造や工法の変更等	近年の厳しい財政事情を踏まえ、橋梁構造等の見直しによるコスト縮減（5%減）を図るとともに、暫定2車線施工、及び総合評価入札方式（評価項目：工期短縮）の導入に努めている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	慢性的な交通混雑に加え、交通事故率も他地域に比べて高いという道路環境の中で沿線に新病院が開院することにより、事業採択当時よりも、必要性が高まっているため、継続して事業を実施する必要がある。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。